

アジアにおける河川再生のためのネットワーク構築と活用に関する研究

—小さな自然再生に関わる事例調査と事例集制作・普及—

Study on Building and Utilizing Network for the River Restoration in Asia

-Surveying and Producing Case Studies in Mini-scale Nature Restoration for Wider Use-

水循環・まちづくりグループ 研究員 後藤 勝洋
 技術参与 土屋 信行
 水循環・まちづくりグループ 研究員 伊藤 将文
 企画グループ 小野寺 翔

1. はじめに

「日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)」は、2006年11月の設立以降、河川・流域再生に関する情報を交換・共有することを通じ、会員間のコミュニティーを拡げながら、各地域に相応しい河川・流域再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的として種々の活動を展開している。また、国際的な河川再生に関する知識・技術情報の交換と人材交流を目的に設立された「アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)」の日本窓口を担い、中国・韓国等のアジア各国との協働・連携を進めている。

本稿では、当研究所と(株)建設技術研究所国土文化研究所が共同で取り組んでいるJRRN事務局運営の2014年度の活動概要を報告する。

2. 2014年度のJRRN活動内容

2-1 2014年度の活動概要

2014年度にJRRN活動で取り組んだテーマ別の主な活動概要を表-1に示す。このうち、特に重点的に活動した「小さな自然再生に関わる事例調査と事例集制作・普及」について次節で詳述する。

2-2 小さな自然再生に関わる事例調査と事例集制作・普及

本調査研究は、近年各地で広がりつつある、地域住民が行政と連携し、手作りを中心に取り組まれている「小さな自然再生」に着目し、全国の中小河川で取り組まれている小さな自然再生の事例を調査した上で、その考え方や実施に際しての留意点等を整理・分析した。そして、身近な川での自然再生への市民参加を促し、市民と河川管理者の連携を推進するため、調査結果を事例集としてとりまとめ、普及を行った((公財)河川財団の河川整備基金の助成を受け実施)。

(1) 小さな自然再生事例集編集委員会(表-2)

本調査研究は、小さな自然再生の実践を通じその技

表-1 2014年度の主な活動概要

テーマ	活動概要
河川再生に関わる情報共有基盤整備	<ul style="list-style-type: none"> ・JRRN ニュースレター発行 ・JRRN ニュースメール発行 ・JRRN/ARRN ウェブサイト運営 ・JRRN-facebook 運営
河川再生の普及・啓発に向けた行事等の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・「桜のある水辺風景2014」写真集制作・普及 ・「小さな自然再生」事例集制作座談会開催(河川整備基金助成事業) ・「第11回水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム」開催(オーストリア・ウィーン市)
河川再生に関わる調査研究	<ul style="list-style-type: none"> ・小さな自然再生に関わる事例調査と事例集制作・普及(河川整備基金助成事業) ・日本が培った河川再生に関わる知見の海外普及に関わる調査研究
河川再生に関する冊子等の発行	<ul style="list-style-type: none"> ・「桜のある水辺風景2014写真集」発行 ・「欧州河川再生会議2014参加報告」発行 ・「水辺の小さな自然再生事例集」発行
河川再生の推進に向けた国内外団体の支援や協働	<ul style="list-style-type: none"> 【国内活動(支援・協働団体)】 ・JRRN 団体会員 ・筑波大学白川(直)研究室 ・水の巡回展ネットワーク ・堀川再生の会・五平太 ・東彼杵清流会、長崎県東彼杵町 【海外活動(支援・協働団体)】 ・アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN) ・欧州河川再生センター(ECRR) ・オランダ水理研究所(Deltares) ・国際河川財団(IRF) ・韓国建設技術研究院(KICT)

表-2 「小さな自然再生」事例集編集委員会名簿(所属は設立時)

氏名	所属
伊豫岡 宏樹	福岡大学 工学部社会デザイン工学科
岩瀬 晴夫	(株)北海道技術コンサルタント
甲斐 崇	(株)四電技術コンサルタント
菊池 佐智子	山梨県富士山科学研究所 環境共生研究部
瀧 健太郎	関西広域連合 本部事務局
竹内 えり子	(株)建設技術研究所 東京本社環境部
田中 五月	一般社団法人 ClearWaterProject
中島 満香	プライスウォーターハウスクーパース(株)
長山 昭夫	群馬工業高等専門学校 環境都市工学科
浜野 龍夫	徳島大学大学院
林 博徳	九州大学大学院工学研究院
原田 守啓	(独)土木研究所 自然共生研究センター
三橋 弘宗	兵庫県立大学 自然・環境科学研究所
宮尾 徹	(株)建設技術研究所 東京本社水システム部
吉富 友恭	東京学芸大学 環境教育研究センター

術普及に尽力する専門家、専門知識の社会への橋渡しを行う有識者、若手技術者・研究者からなる有志で構成される「小さな自然再生事例集編集委員会」を設立し協働で実施した。編集委員会では、事例集の構成や内容、デザイン等について協議を行い、それぞれの専門分野を最大限に活かして事例集を制作した。

(2) 水辺の小さな自然再生事例集 (写真-1)

「水辺の小さな自然再生事例集」(以下、“本事例集”)は、主な対象とする読者に地元の河川や水辺で活動している市民を想定し、本事例集を通じて小さな自然再生に興味を持ち“私たちもやってみよう”という意識を喚起することを狙っている。

《表紙》



《構成》

- 1章 水辺の小さな自然再生とは
- 2章 水辺の小さな自然再生を行うための留意点
- 3章 事例紹介
- 4章 「小さな自然再生」座談会

公開 URL: <http://jp.a-rr.net/jp/news/info/567.html>

写真-1 水辺の小さな自然再生事例集

本事例集は4章からなり、編集委員それぞれの思い入れのある13の事例(写真-2)をまとめた《3章 事例紹介》に加え、前段のイントロダクションとして、小さな自然再生の定義や基本的な知識《1章 水辺の小さな自然再生とは》や、河川管理者の許可や地域住民との調整・連携、治水や景観への配慮など、小さな自然再生を行うに当たって知っておくべき必要事項《2章 水辺の小さな自然再生を行うための留意点》を示した。最後に、小さな自然再生の今後の推進に向けた座談会(後述)の協議内容《4章「小さな自然再生」座談会》をとりまとめた。

《3章 事例紹介》では、現場で工夫した点や失敗した点などの技術情報や、実施体制などのスキーム、使用している材料や工具など、現場を熟知されている編集委員ならではのアイデアによる、小さな自然再生の初心者が見ても面白い内容となるよう留意した。また、本事例集の特徴として、編集委員会にデザイン・広報

の専門家が参画することで、既存の土木関係の参考書に見られるような堅いイメージを払拭し、誰もが手に取りやすい、視覚的にわかりやすい書籍となるよう工夫した。

各事例を見ると、取組みの背景や参加者の所属・役割分担は多様であるが現場での推進力となるキーパーソンがいること、手作りを前提とした簡易的な構造ゆえに、試験的・順応的(手直し可能)な施工が可能であること、それぞれがアイデアを出し合い地域づくりに繋がっていることなどが成功事例の共通点となっていることが伺える。



駒生川の魚道 桂川のパーブエ 上西郷川の丸太式水制
写真-2 事例集で紹介している活動

(3) 「小さな自然再生」事例集制作座談会

「小さな自然再生」座談会は、協議内容を事例集に掲載するために企画され、小さな自然再生に関わる関係省庁の施策との共通項や関連性を見出し、身近な水辺での自然再生活動への市民参加を促すことを目的として、下記の参加者で開催した。

■座談会座長：玉井信行(東京大学名誉教授)

■座談会参加者：

- 鳥居敏男 (環境省自然環境局自然環境計画課長)
- 中村圭吾 (国土交通省国土技術政策総合研究所河川研究部河川研究室 主任研究官)
- 岩瀬晴夫 (株式会社北海道技術コンサルタント)
- 浜野龍夫 (徳島大学大学院教授)

座談会で指摘された、小さな自然再生の推進に向けた課題(キーワード)を以下に示す。

- ・「小さな自然再生」に関わるワンストップ窓口の設置(取組みを始める際の総合相談窓口)
- ・動ける技術者の参加(有志で参加していただき、市民から信頼の得られる職人技を持った技術者)
- ・若手技術者の育成、そのための訓練の場の確保(ある程度の失敗が許容できる現場)

3. おわりに

本事例集の全国への普及を通じて、身近な川、水辺の保全への市民参加を促し、今後も小さな自然再生の事例や技術情報を集約するとともに、本事例集を活用した現場研修会を実施する予定である。